

計量計測関連企業の2019年3月期決算が出揃う



計測と科学
毎週日曜日発行
日本計量新報社

東京都江東区亀戸7丁目62-16
〒136-0071 TEL 03-5628-7070
FAX 03-5628-7071

http://www.keiryu-keisoku.co.jp/

振替口座 00140-5-12935
購読料年間 25,000円(消費税別)

定量計量専用機

Pack
NAVI

速くハカル、
楽にツメル



Yamato

大和製衡株式会社 tel:078-918-6577
http://www.yamato-scale.co.jp/

過去最高益の企業もあるなど おおむね好調

国内は回復基調ながら米中貿易や原油市場に懸念

計量計測関連企業の2019年3月期決算が出揃い、なかには過去最高の売り上げや利益となった企業もあるなど、おおむね好調な決算となった。今後の見通しは、米中の貿易問題や原油市場の影響、EU問題など国外のさまざまな懸念があり、世界経済の不確実性に留意する必要がある。

島津製作所

2019年3月期の業績は、売上高は391.2億1300万円(前期比3.9%増)となり、営業利益は44.4億8000万円(同3.9%増)、経常利益は45.4億6200万円(同8.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は32.5億2300万円(同9.0%増)となり、4期連続で過去最高の業績を達成した。

事業区分別の販売状況は次のとおり。

■計測機器事業Ⅱ北米では、ヘルスケア・食品向けに液体クロマトグラフ・質量分析システムが好調に推移した。欧州では、食品・受託分析向けなどに質量分析システムが好調に推移した。中国では、政府主導の環境対策強化により、環境計測機器が大きく売上を伸ばすとともに、大学・研究機関や受託分析向けに質量分析システム・ガスクロマトグラフが好調に推移した。東南アジアでは、製薬向けに液体クロマトグラフが好調に推移し、環境規制対応向けの質量分析システムも好調となった。インドでは、製薬向けの液体クロマトグラフが低調で、売上が減少した。



見やすいバックライト付大型表示 ¥33,000(税抜)

日本では、化学分野での設備投資減少により液体クロマトグラフや質量分析システムが減収となったが、輸送機関連分野で非破壊検査システムが好調であったことなどから、全体の売上は微増となった。

この結果、当事業の売上高は241.3億9500万円

円(前期比4.2%増)、営業利益は売上増加などにより、38.7億7600万円(同4.7%増)となった。

医用機器事業Ⅱ北米

は、昨年度のデジタル化促進施策による需要が落ち着いたことから、X線撮影システムの売上が減少したことに加え、血管撮影システムの案件の遅延もあり、売上が減少した。欧州では、操作性に優れた回診用装置の新製品など全般的に好調に推移した。中国では、X線撮影システムが国産品の優遇により減少したことに加え、X線TVシステムが地方政府の予算削減にともなう案件の遅延により減少した。東南アジアでは、大口案件により、血管撮影システムが好調だった。

今週の主な記事

- 計量計測関連企業2019年3月期決算 ①面
- 指定検定機関講習、中部7県計量協議会 ②面
- 圧力計温度計工業会・都計協総会 ③面
- とっぎょうの計量(267号) ④⑤⑥⑦面
- 特集・全国計量士大会 ⑧⑨⑩⑪面
- 東日が養育、チノ一果体作ほか ⑫面
- 原簿被害が及ぼす社会影響とどのように向き合うか ⑬⑭⑮⑯面
- 寄稿(佐藤克哉、安藤正一)過積載特集 ⑰面
- 社説「計測値で語られる諸因果の受け止め方」 ⑱面

のX線撮影システムや、放射線治療装置用動体追跡システムが好調に推移した。

この結果、当事業の売上高は69.0億8400万円(前期比4.8%増)となり、営業利益は北米での売上減少などが影響し、23億2700万円(同13.8%減)となった。

航空機器事業Ⅱ北米

は、中・小型旅客機の需要増加により売上は増加したものの、日本では、防衛省向け航空機搭載機器が減少した。この結果、当事業の売上高は27.3億4300万円(前期比1.1%減)となり、営業利益は1.9億1900万円(同75.1%減)となった。

産業機器事業Ⅱターボ分子ポンプ

は、中国ではフラットパネルディスプレイ製造装置向けや薄膜太陽電池等のコーティング装置向けが伸びたが、北米の半導体製造装置や日本のタッチスクリーンパネル用コーティング装

置向けの需要低迷により売上は減少した。真空熱処理炉は、好調な工作機械向け工具需要を背景に日本で増加した。油圧機器は、日本・中国・欧州で引き続き堅調に推移した。

この結果、当事業の売上高は45.4億1900万円(前期比2.8%増)、営業利益は売上増加などにより、44億6500万円(同9.3%増)となった。

その他の事業Ⅱ

当事業の売上高は79億7100万円(前期比10.4%増)、営業利益は13億7500万円(同54.3%増)となった。

【次期の見通し】

2019年度は中期経営計画の最終年度であり、施策を着実に実行し、当初設定した目標の達成に努める。経済や競争環境が大きく変化する中で、新たな成長に向けた次期中期経営計画の策定を進める。

ID: 51388
PW: bhcc5pet3

とっぎょうの計量

④⑤⑥⑦面

3244・3245
号を合併号とし、6月
30日付で発行します。

私たちイシダグループは、
世界中のお客様の課題を
革新的に解決し、
安全・安心で豊かな社会の
創造に貢献します。

はかりしれない技術を、世界へ。

ISHIDA

株式会社イシダ www.ishida.co.jp
本社 京都市左京区聖護院山王町44 〒606-8392 TEL 075-771-4141